

平成24年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	181	事業名	国際理解推進事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		交流
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	多くの区民が外国と触れ合う機会や経験を持つ今日、区民が国際理解を深め、国際社会の一員として、世界に目を向け、外国人を受け入れる意識を共有していきます。		
手段	大学等と連携し、国際理解に資する講座を開催します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
大学連携講座	回	1	1	1	100%	1			1

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	237	223	217	202		
特定財源	46	60	22	60		
一般財源	191	163	195	142		
所要人員 B	0.25	0.25	0.25	0.25		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	1,773	1,724	1,724	1,702		
総経費 E=A+D	2,010	1,947	1,941	1,904		

4 評価					
事業の成果及び課題					
23年度		24年度		25年度	
【成果】 大学連携講座は、文京学院大学との連携で「初めての英文メール」を実施、23人の参加があり、英文メールの書き方を通して、国際理解に資するスキルを学びました。		【成果】 フェアトレードに関する活動を行っているサークルのある東洋大学と連携し、「一人一人の国際貢献～フェアトレードについて考える～」と題する講座を実施、44人の参加があり、フェアトレードについての理解を深めました。区内団体等にも直接声掛けするなど、きめ細かく事業の周知を図ったため参加率が向上しました。		【成果】	
【課題】 大学連携講座は、募集に対し、77%の参加率でした。募集方法、内容、日時等見直しつつ参加率をさらに上げるよう努めます。		【課題】 区民の国際理解を深めるため、どのようなテーマを設定し、また、どのように講座を進めるかなどを、引き続き検討します。		【課題】	
指標達成度		23年度	24年度	25年度	
		B	A		

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①「とても勉強になった。興味深かった。また、機会があれば参加したい。」（参加者アンケートから）	
②区内大学に講座の実施を委託しました。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	引き続き同規模で事業を実施し、国際理解の推進に努めます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳
25年6月末		③ 所要人員の考え方 常勤1人×10%+非常勤0.5人×30%=0.25人
		④ 現状維持の理由 国際理解の推進には様々な手法が考えられます。現在の事業内容、やり方等を見直しつつ、さらに効果が上がるよう進めます。

平成24年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	182	事業名	山村体験交流事業協力
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		交流
個別計画	【小項目】		
	国内外の交流		
所管	区民部	区民課	
目的	充実した山村体験交流事業が実施できるよう協力することにより、区民が自然とのふれあいや魚沼市民との交流を楽しめる場を確保し、自主的交流への発展および山村体験宿泊施設の活用を図ります。		
手段	山村体験宿泊施設の運営事業者が実施する区民を対象とした田植え・稲刈り・川遊び・雪遊び等の山村体験交流事業に協賛し、参加者募集に係るPR業務を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
事業実施回数	回	14	20	20	100%	20			20
事業参加者数	人	386	550	374	68%	550			550

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	455	775	774	769		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	455	775	774	769		
所要人員 B	0.20	0.20	0.20	0.20		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	1,418	1,379	1,379	1,362		
総経費 E=A+D	1,873	2,154	2,153	2,131		

4 評価				
事業の成果及び課題				
23年度	24年度	25年度		
【成果】 募集定員に対して参加希望者が多かった事業については、より多くの区民が参加できるよう、22年度に実施回数を増やしました。その結果、実施回数が3回、参加者数が94人増加しました。 参加者アンケートの意見をもとに、体験日程や内容について、事業の主催者である山村体験宿泊施設運営事業者と協議のうえ見直しを行い、より良い事業になるよう改善に取り組みました。	【成果】 田植え・稲刈り・川遊び・雪遊び等の事業については、定員の2～3倍を超える申し込みがあります。体験事業のほかにも、昆虫採集や山菜とりや、地元の方のもてなし等、四季に応じた都会ではできない体験が喜ばれています。（23年度参加者アンケートより）	【成果】		
【課題】 平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により、山村体験宿泊施設の利用者数および交流事業の申込者数が低迷しているため、より一層PRを強化していく必要があります。	【課題】 平日の山村体験交流事業申込者数が引き続き低迷しているため、仕事をリタイアした高齢者層等、平日利用が見込まれる層に対してPRを強化する必要があります。 また、参加者募集が事業の3ヶ月前であり、当選後にキャンセルする例が多いため、募集時期を改善する必要があります。	【課題】		
指標達成度		23年度	24年度	25年度
		A	B	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	「自分のように田舎がない都会の人間にとっては、最高の場所」（平成24年度区民の声）「施設は清潔に保たれ、細やかな配慮を感じる」「地元の方と一緒できることで、まるで自分のおじいちゃんやおばあちゃんと接しているような気分になれる」「苗の様子、土の感触、植えた後の充実感、すべてが良い体験」「地元団体との連携プレイに関心!」「自然だけでなく、魚沼の歴史・文化に触れられてとても良かった」「もっとPRに力を入れると良い」以上、（平成23年度参加者アンケート）
②	

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 区民に山村体験の場と魚沼市民との交流の機会を提供していきます。
		② 予算の増減内訳 山村体験交流事業参加者募集事務費の減 6千円
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 12/12月×1人×20%=0.2人
		④ 現状維持の理由 都市では得られない自然や人とのふれあいの機会を提供することにより、区民の健康と福祉の増進を図る必要があります。
25年6月末		

平成24年度 事務事業評価表【B様式】

1 事業の概要			
事業番号	183	事業名	海外都市との交流事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		交流
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	海外都市とのさまざまな交流を通して、相互の発展と、友好、理解を深めます。		
手段	相互に訪問団の派遣、受け入れを行い、視察、意見交換等を行います。姉妹都市との間で、ホームステイ生徒の派遣、受け入れを行います。		

2 取組状況	
22年度	4月：北京市昌平区国際温泉産業会議出席、昌平区視察（区長、職員、区議会議長） 6月：北京市人民対外友好協会訪問団受け入れ（区長・区議会議長表敬訪問） 6月：北京市昌平区女性代表団受け入れ（区長・区議会議長表敬訪問、男女平等センター視察） 11月：ソウル特別市松坡区へ職員（担当課長、職員）派遣 区長表敬訪問、実務者協議、区内視察 7月：ホームステイ生徒受け入れ（3名）
23年度	7月：ホームステイ生徒派遣（4名） 10月：ザ・トリプ・リユクン・カイザー・スラウテルン・ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団演奏会鑑賞 北京市人民対外友好協会訪問団受け入れ（区長表敬訪問） カイザー・スラウテルン単科大学教授受け入れ（大学間国際交流調査） 北京市昌平区訪問団受け入れ（区長表敬訪問、意見交換会） 1月：カイザー・スラウテルン市交流コンサート（ピアノ演奏会）
24年度	

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,894	9,511	1,401	8,941		
特定財源	200	2,400	400	0		
一般財源	1,694	7,111	1,001	8,941		
所要人員 B	0.60	0.60	0.60	0.60		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	4,255	4,137	4,137	4,085		
総経費 E=A+D	6,149	13,648	5,538	13,026		

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】	北京市昌平区での温泉会議は、区長らが出席し、会議のみならず、昌平区長はじめ関係者とも会い、今後の交流に向け積極的な意見交換を行いました。昌平区女性団体を受け入れ、男女平等問題について、視察、意見交換ができました。21年度のソウル特別市松坡区職員の文京区来訪に続き、22年度は、初めて文京区職員が松坡区を訪ね、区長の親書を渡し、今後の交流に向けたきっかけ作りができました。	【成果】	昌平区訪問団を受け入れ、教育関係を中心に情報・意見交換を行い、理解を深めました。ホームステイは、受入れ条件の緩和等により7名の応募があり、選考で男女各2名を決定し、姉妹都市に派遣しました。大学間交流調査のため来日したカイザー・スラウテルン単科大学教授に、東洋大学を紹介しました。カイザー・スラウテルン市交流コンサートにより、姉妹都市の周知を進めました。
【課題】	北京市昌平区は、交流について文書（交流趣意書、覚書等）の締結を希望していますが、区としてはさらに交流を積み重ねていきたいと考えています。昌平区、松坡区等交流の歴史が浅いところとは、今後の交流の進め方、手法などが課題です。ホームステイの希望者が、この2回（第13、14回）少ないです。	【課題】	松坡区との連絡が、先方の人事異動等によりスムーズに進まなかったため、今後は、連絡を密にし交流の進め方を考えます。昌平区とは、交流の実績を増やしていく必要があります。平成25年に提携25周年を迎える姉妹都市との周年事業を検討します。
達成度		23年度	24年度
		B	B

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	平成25年に締結25周年を迎える姉妹都市や近年交流を始めた都市と、どのような手法で交流を進めるか、見直しつつ検討し、一層の交流を進めます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳
25年6月末		③ 所要人員の考え方 常勤1人×50%＋非常勤0.5人×20%=0.6人
		④ 現状維持の理由 今までの交流に加え、区民、産業、教育など様々な面から交流を進め、互恵関係を構築していきます。

平成24年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	184	事業名	外国人参加型交流事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		交流
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	交流事業を通して、相互に理解を深め、また、区内に住む外国人が地域社会の一員としての意識を持ち、共に活力ある地域社会を作っていきます。		
手段	町会などの地域で活動する団体と連携し、地域で行われている事業に外国人が参加する機会を提供します。さまざまな国の文化体験、情報紹介、音楽・舞踊演奏などを紹介するフェスティバルを開催します。また、外国人を対象に、区が養成した英語観光ボランティアが、区内の文化、観光施設等を案内します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
地域活動連携事業	回	1	1	2	200%	1			1
国際交流フェスタ	回	1	1	1	100%	1			1
英語観光ガイドツアー	回	3	3	2	67%	3			3

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,786	2,639	2,095	2,141		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	1,786	2,639	2,095	2,141		
所要人員 B	0.65	0.65	0.65	0.65		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809		
人件費 D=B×C	4,610	4,482	4,482	4,426		
総経費 E=A+D	6,396	7,121	6,577	6,567		

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】	地域活動連携事業として、神輿かつぎを実施しました。国際交流フェスタは、37団体の参加があり、異文化の体験等を通し多くの交流がもてました。英語観光ガイドツアーを2回実施、41人が参加し、外国人の文京区への理解を深めることができました。	【成果】	地域活動連携事業として、浴衣着付け体験会と、初めて、子供対象の交流事業を実施しました。国際交流フェスタでは、様々な異文化体験を通し、前年度より多くの交流がもてました。英語観光ガイドツアーを2回実施し、30人が参加したほか、ツアーの回数を増やし、インターネットで申込を受ける準備を進めました。
【課題】	国際交流フェスタは、アカデミー推進部に係る横断的イベントとしてできないか検討します。また、毎年2月に実施しているが、9月など気候のいい時期に実施できないかとの意見があります。ガイドツアーは区が主催していますが、今後はより細かく、来訪者のさまざまな要望に応えられるツアーが求められています。	【課題】	区内にどのような地域活動があるか調べ、連携を進めます。国際交流フェスタでは、日本文化の紹介が多いため、外国文化の紹介の充実を検討します。英語ガイドツアーでは、インターネット申込を開始し、ツアーの回数、内容を充実することが求められます。
指標達成度		23年度	24年度
		A	B

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	「楽しかった。またこのような事業をやってほしい」（ゆかた着付体験、国際交流フェスタ）「日本文化の紹介が多く、外国の文化の紹介が少ない」（国際交流フェスタ）
②	区民団体の講師によるゆかた着付体験を行い、外国人、日本人の参加がありました。国際交流フェスタは、区民等により組織された実行委員会が実施しています。また、ガイドツアーは、区民ボランティアが英語で外国人をガイドします。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 区内の団体、大学、ボランティアなどと連携を密に取りながら、各事業を展開します。
24年6月末	改善・見直し	② 予算の増減内訳
25年6月末		③ 所要人員の考え方 常勤1人×40%＋非常勤0.5人×50%=0.65人
		④ 現状維持の理由